婦人と新社會

山田わか主筆

六月號

婦人運動の發達とその傾向

婦人運動の起源――我が國に於ける三種の婦人論――難問題解決の鍵――因習の垣を乘り越へた最初の婦人――現代思想の源泉――川の表面を流れる浮標――健康的な生活は鑛山の坑夫よりも今日の家庭婦人に難しい――運動には熱が必要――チャームの力――情緒の作用を規定するための政權――情緒に基礎を置く獨逸の婦人運動――獨逸に於ける「母の家」――男女關係向上の表徴――性的道德改革の意義――個人の幸福と社會の利益とは相反するものでない――最も進歩した婦人運動の宣言――眞の愛を味ひ得る時は何時か

落穂集

晩春の手記

血色（ちいろ）の文字

毎月一回一日發行　第四號　大正九年六月一日發行

東京東洋出版社發行

婦人と新社會

六月號

一人の友が生きてゐた昨日も彼が永遠に目を閉ぢた今日も天地の姿には少しの變化もない。昨日と同じやうに今日も庭の新芽はスク〱と生を樂しんでゐる。雀も昨日と同じ樣に立木のなかでガチヤ〱騒いでゐる。太陽は相變らず强い光線を地の上に投げてゐる。この天地は私共の友を一人ペロリと呑んで口をふいて、そして、ケロリとしてゐると云ふやうなかたちである。

一寸の間水上に現れた雪のやうに白い波頭が次の瞬間には消へてなくなつて青い水に歸へるやうに、咲き誇る櫻花が三日見ぬ間に拭いてとつたやうに見へなくなると同じやうに、人のいのちもフラリと地上に現れて、フラリと消へてなくなつて、それでおしまいなのであろうか？

そうでないとは思ふが、併し、そうであつても差し支へない。私は此の地上から消へてなくなる其の瞬間に、持つてゐた力を一杯働かせ得たと云ふ自信をもつて、そして、ほつとした滿足の微笑を此の世に殘して死にたい。有効に費した一日をかへりみて、そして、愉快に床につく時のやうに。

婦人運動の發達とその傾向

婦人運動の起源

婦人運動は民主々義の自由を婦人に應用したものであります。婦人の生理的、道徳的、智力的、經濟的發達を妨げるあらゆる障害物を取り去らふとするのが婦人運動であります。そして、文明國に於ける婦人團體によつて凡そ一世紀間奮鬪されて來たものであります。が、これはもと〳〵民主々義の適用でありますから民主々義の最も發達した處には最も進んで居りますし、獨裁政治の行はれて居る國に於ては最も遲れて居ります。そして、この婦人運動は性的關係を潔くしたいと云ふ本能と、民主々義の

理想を持つたあらゆる階級の婦人の運動であります。

婦人運動の哲學は、十八世紀に於て、最も倫理的に男子によつて始められたものであります。民主々義が男子の發明でありますから、婦人への其の適用が男子によつて始められたのも、むしろ、當然でありませう。佛蘭西の大革命の哲學的基礎を造つた思想家が、矢張り、この婦人運動の哲學的基礎を造つたのであります。

民主々義はかくの如くにして自由と平等の基礎的理論を婦人運動に與へました。けれども、革命的の運動には理論以上の或るものが無くてはなりません。人はパンのみにて生くるものでないと云ふことは事實でありますが、併し、パンがなければ人の精神も亦死んでしまうと云ふことも事實です。で、革命を成就するには、前に申ました思想家の造つた革命の理論を動かす力が無ければなりませんが、其の力は國民の苦痛であつたのです。則ち、佛蘭西の民衆の物資の缺乏から來る苦痛が其の理論を働かせたのであります。

婦人運動も亦同じです。民主々義が婦人運動の哲學的基礎を造つたのでありますが、

併しこの運動を動かした力は婦人の感情であつて、婦人の頭腦ではなかつたのです。婦人の不自由の苦痛であつて學說ではなかつたのです。そして、此の運動は先づざつと三つの時代に分けて見ることが出來ます。其の第一の時代は個人の自由と云ふことが理想であつて、其れが、稍、成長して第二の時代に入ると其の理想を實行しやうとする努力、そして、其れが成熟して第三の時代に入ると民主々義の未來は個人主義ではなく、集合主義であり、自由の要求ではなく幸福の要求であると云ふことが明らかになつて參ります。そして、これが最も進步した婦人論であります。

我が國に於ける三種の婦人論

我が國に於ても、婦人言論界は隨分賑やかでありました。女權に附いて、婦人の義務に附いて、女子敎育に就て、婦人職業に就いて、種々樣々な議論が續出して、實の處、若い婦人はどの方面に進んで行つてよいものか五里霧中に迷つてゐると云ふ有樣でありました。

けれども、今は、我が國に於ても、婦人論はほゞ三種に迄結晶して來ました。其の一は婦人の個人としての權利を主張する個人主義から來た婦人論でありまして、これは大體に於て與謝野晶子氏が代表して居ります。それから其の二は社會主義の婦人論でありまして、これは我が國の急進派と云はれる山川菊榮氏が先づ大體に於て代表してゐるやうに云はれてゐます。實を云ふと、寡聞な私は山川菊榮氏の積極的な主張に餘り多く接してゐません。私の讀んだ菊榮氏の議論の大部分は大抵、他の議論を非難するに止まつたものでありました。けれども菊榮氏が社會主義者であつて、そして、婦人論者でありますから、社會主義の婦人論の代表者と云つても先づ差支へはありますまい。處で、此の婦人論は我が國の所謂社會主義者の勞働階級の問題が全人類の問題であると云ふ立場から來てゐるものでありますから、勞働婦人の利害以外には何物をも眼中に措かない。至つて眼界の狹いものであります。のみならず、今日の此の社會を建設するに附いての先人の努力、先人の功績に對しては塵程の尊敬を拂ふこともせず、又、社會の實情を基礎に考慮したものでもありませんから、其れを以つて、婦

人全般の問題が解決出來やうとは毛頭考へられません。

我が國に於ける母性保護を重心とした婦人論は今から七八年前、私の夫が獨逸の母性保護同盟會の事業を雜誌『女王』に紹介しましたのが始まりです。平塚明子氏も此の說を奉じて居りますし、私も、勿論、母性保護を重心として居ります。私から見た平塚明子氏の性格は個人主義的女權論の方に行かれる人のやうに思はれますが、併し、そうではなく、情緒から出發した母性保護論に出られたのは明子氏の豊かな人間性がしからしめたのであらふと私は思つてゐます。これに反して、與謝野晶子氏の熱情的な性格は、情緒から來て居る母性保護に行かれる人であるやうに思へるのですが、そうでなく、いつも婦人の個人權と云ふ處に固執して居られるのを見て、私には、其れが輸入思想の範圍を出て居られないやうに思へてなりません。

世界は、今、子供の權利と云ふ處に氣付いて參りました。未來の國民の幸福、則ち、子供の利益を計る事が全人類の幸福であり、進步の道であると云ふ處に人は目を付けて來たのです。そして、そう考へる時には、自然婦人の步むべき道、とらねばならぬ

方針が判然と見えて來ます。それは、丁度、暗中行く手に一つの燈火を認めたやうに婦人思想界に一條の光明を與へたのであります。

難問題解決の鍵

私は友人の肺病患者を自宅に引きとりまして、殆んど、一年間世話致しまして、ツイ、先日死なせましたが、自分の肉身でないものを、從つて、彼の病苦や死が、自分の肉身の病苦や死程痛切に自分にひゞいて來ないものを手許に置いて世話することの非常な犧牲――黴菌の傳播を豫防する苦心、日毎夜毎の身分不相應な莫大なる支出――實に其の犧牲だけに付いて考へて見る時には何の爲めに自分達が其れ丈の重荷を負はねばならぬかゞわからなくなります。けれども事を自分の重荷と云ふ處の一點にのみ止めないで、眼界をずつと擴げて考へて見る時に其處に自分達の苦心の效果は、はつきりと分つて來るのでした。

第一、重患に陷つても親身になつて世話して吳れるものを持たない不幸な心細い位

置にある本人の滿足、第二に、私共程本人に對して親しみを持つてゐない本人の幾人かの友人の安心、何故なれば其の友人達は私共が本人を引とらなかつたならば、本人の世話も出來ないが、見ても居られずと、云ふやうな羽目に陷つて苦しむに相違ありませんから。第三に彼は亞米利加にゐて病を得たのでありますが、私共が彼れを呼びよせたことによつて本國にあつた彼の知己親戚は皆、彼れとの再會を喜びました。こう云ふ風に四方八方に擴つて行く影響に付いて考へて見る時に私共一家が病人のために嘗める苦勞は決して無意義でないと云ふことが明らかになつて非常に重いと思つた犧牲の荷も輕く〳〵なるのを覺へるのでした。目を或る一點にのみ止めて居ては行きつまる計です。けれども、目を他に轉ずることによつて、つまり、眼界を廣くすることによつて私共はやす〳〵と解決を得ることが出來ます。

女權の擴張と云ふことも、女だけの利害と云ふ點にのみかゝづらり付いてゐたのでは決して解決はつきません。けれども、それが社會的にどう云ふ影響があるかと云ふ處に目を付けて始めて一切が明瞭になるのであります。又、もし、其れが女子自身の利害

と云ふ處に止まる問題であるものならば社會的に大きな勢力を持つことは出來ませんが、其れが人類の進歩、社會の向上と云ふ處に關聯するので勢力が出來ます。處で、人類の進歩とは親よりも子供を優良な人間にすることであり、子供が優良になり得るやうな社會狀態を造ることであり、又、實際に親と云ふ親は皆自分よりも子供を賢い偉い人間に仕樣と努力しつゝあります。けれども、個人主義の勃興は各人が現に實行しつゝある其の事實を見逃してゐました。其の上に、今日の文明は有閑階級と資本の存在が建設したものであることも忘れて無條件の階級打破や個人の權利を叫んで來ました。女權の擴張を企てゝ來ました。

因習の垣を乘り越へた最初の婦人

一度、與謝野氏は、人間の肉體を分析して細胞にすれば男の細胞も女の細胞も全然同じである、だから男と女を區別するのは不正であると、云ふやうなことを主張して居りましたが、これは本當に可笑しな說だと私は考へて居ました。一體細胞は男も女

も同じだと云ふことは未だ立證されてゐませんが、又、たとへ、元素は同じものでも、其處に結果となつて現れでゐるものが異つて居れば、自然異つた作用を持つものであり、從つて別な取り扱ひをしなければならない、『落つれば同じ谷川の水』でも氷は氷の用を爲し、熱湯は熱湯の用を爲すものでありますから。で、今の婦人思想界に於ては最早、男も女も同じであると云ふ說は時代後れになつて居ります。男と女は心理的に生理的に全然異つたものであり、從つて、異つた作用を爲すものであり、又、それが全人類の幸福の根源であると云ふことに世界は今氣が付いて來たのです。そして、『最大なる自由は最大なる制限の下にのみ享有し得る』と同じ樣に婦人の最大なる權利は子供の最大なる幸福を計ることによつて得られると云ふことに人々は追々耳を傾ける樣になりました。これは人類進步の過程に於て最大なる進步であるに相違ないのです。

處で、婦人の個人としての權利を主張した個人主義的の思想は何處から始まつたかと申ますと、この論文の卷頭にも申ましたやうに、その種は十八世紀に於て蒔れたものでありました。婦人の位置が不合理であり、一大不調和であると云ふことが發見さ

れたのは其の時であつたのです。正義、自由、平等と云ふ漠然とした叫びが其の當時此處其處に起りまして世界は混亂狀態に投げ込まれたのでありますが、それは皆樣も御承知の通りルソーの『平等なる人間が自由に契約して成つた國家社會は全く自由と平等を理想とし、これを諸制度の基礎としなければならぬ。』と云ふ思想が醱酵して一般自由思想の勃興となつたものでありますが、この時に正義、自由、平等と云ふ思想が婦人にも應用されたのでありますことは前にも申ました。

そして、佛蘭西に於てはコンドルセーとオリンプ・ド・グージ女史が殊に努力しまして此の生れた計りの婦人運動の基礎をかためつゝあつたのでありますが、この時に英國に於てメリー・ウオールストンクラフト女史がコンドルセーの其の運動に聲援したのであります。『イーブは禁じられてある智慧の木の實に手をのばした。これが婦人運動の始まりである。後の世界に於ける婦人運動の象徴である。婦人の意志は常に有識無識のうちに外部から引かれた境線を乘り越へやうとしてゐた。』と或る先覺婦人は云つて居ますが、實に十重二十重に婦人の周圍に結ひめぐらしてあつた因習の垣を有識

に第一番に乘り越へやうとしたものは佛蘭西のオリンプ・ド・グージ女史、及び、英國のメリー・ウォールストンクラフト女史でありました。

ルソーの『自然に歸れ。』の大聲が其の當時の人心を煽つて佛蘭西のあの大革命となつたのでありますが、其の餘波を受けてオリンプ・ド・グージ女史は女權の聲明が論理的であることを確信するやうになりました。女史は實に今日の婦人運動の先鋒者であつたのです。女史は一七九一年『女權の布告』と云ふ一篇を發表することによつて先鋒者の位置を確かに得たのであります。そして、其の『女權の布告』のうちには『婦人は斷頭臺に登る義務があるのに何故トリプユーン(佛國代政院に於ける演壇)に登る權利が無いか?』と云ふ言葉があります。そして、其の二年後に彼女は斷頭臺に登つたのでありました。實に女權の要求を絕叫した婦人達は革命のために大抵殺されたり、或ひは、流刑に處せられたりしましたが、もし、其の時、刑を受けなくとも彼女達はナポレオンの治世の下に矢張り同じやうな壓迫を受けたに相違ありません。ナポレオンの女性觀は、唯、大砲の彈丸の的になる兵士を生む道具であつたのですから。ナポレオンは

文學に於てゝすらも女權の擴張を出來るだけ撲滅しやうとしてありつたけの策略を廻らしたものでした。

現代思想の源泉

オリンプ●ド●グージ女史が『女權の布告』を發表した其の翌年、英國に於てメリー●ウォールストンクラフト女史は『女權の擁護』を出版しました。ルソーの强烈な自由平等の思想は全世界を動かして、そして、現代の一般思想を造つてゐる程偉大なものでありますが、併し、ルソーの頭には婦人と云ふものは無かつたのです。彼の自由平等の思想は全然婦人を除外してゐたのであります。で、ルソーの『女子の敎育は男子の要求に添はなければならない。女子は男子を喜ばせ、男子を慰め忠告し、そして、男子の一生を安樂にすることを本位にしなければならない。』と云ふ意見にメリー●ウォールストンクラフト女史は猛烈に反對して、戀愛と結婚に對する急進的な意見を發表して十八世紀の後半を蹴倒させたとのでありました。けれども、其れは今日の私共を

驚かすやうなものではありません。

女史の有名な其の『女權の擁護』は短時日に無雜作に斷片的に書き上げられたものでありますが、併し、それによつて確に女史は其の時代に傑出した一天才であつたことを證據立てゝ居ます。女史の議論は婦人の見地から多くの婦人の問題を論じた、常識に富んだものでありまして、其の主張の骨子は婦人の市民權でありました。人類の半數である婦人が無敎育であり、自由が無いのでは人類は半分しか進歩を遂げられないと云ふのでありました。メリー女史の此の說は着々と力を得て遂ひに一大運動に迄發達して行き、ヴクトリア女王の長い治世の間に英國に於ける婦人運動の實際の目的は女子敎育の改良でありまして、それは男子の敎育と全然同じものにしやうとするのでありました。そして、其の次は婦人の職業範圍の擴張であり、それから、婦人參政權と云ふ順序でありました。

婦人問題を系統的に跡付けて見る時に當つて決して見逃がしてはならない、又、見逃がし得ぬ婦人の名はジョージ•サンドであります。今日の私共の頭で考へて見る時

にはメリー・ウォールストンクラフト女史及びこのジョージ・サンド女史の戀愛及び結婚觀には賛成出來ない節が澤山ありますが、併し、婦人運動の一階段に於ける戰士として私共は多大な賛辭を捧げずには居られません。燃へるやうな革命的思想を胸に蓄へ、小説を書いて生活をしてゐたサンド女史は或る時、みすぼらしい服裝をして卷煙をふかしながら、『デュ・キャンプと云ふ人の前に坐つて、『私は何にも申ませんよ。私は獸物ですから』と云つたそうですが、これは女史の自由戀愛や其の他の革命的行動が世間の非難の的になつてゐたことを語つてゐますが、併し、其の言葉は忽ち歐洲全土に擴がつて、そして、非常な勢力になつたと云ふことであります。

けれども、女史の其の捨て鉢な言葉は決して女史の腹の底から出たものではありません。と云ふのはサンド女史は眞率な落付いた、そして、柔和な婦人であつたのですから。けれども、常に胸に燃ゆる革命的要素は法律と習慣を非常に嫌つてゐたのです。兎に角く、一般婦人がまだ深く〱い因習の奥に閉ぢこもつてゐる時代に強い個性を充分發達させた勇氣と眞實さは素晴らしいものであると云はねばありません。

十九世紀の中頃に英國の女子教育制度を改造し、かくして、婦人に人間生活の本分を盡さしむる準備をしたのは重に婦人の手によつたものでありますが、其處に一つの例外はジヨン●スチユアトミルが『婦人の服従』を出版して婦人運動に多大な貢献をしたことであります。最もそれより以前ロバート●オーエンやウイリアム●タムソンが婦人運動に努力したことは見逃がせない事實でありますが併しベーベルの婦人論を除けば其の當時男子で婦人問題に筆を染めるものは殆んど無かつたと云ふことでありますが、其の當時は著名な思想家逹が世間の批評や又は卑下されることを恐れてわざと婦人問題には口を噤んで居たと云ふことであります。

それに付いて思ひ合はされ、そして苦笑を禁じ得ないことは今春新婦人協會が議會に請願を出す時に其の紹介を依賴された或る代議士連は『女の肩を持つやうに思はれるから自分は嫌やだ』と云はれたそうでありますが實に我が國の今の男子は英國の半

世紀前の男子と同じやうな氣持ちを持つてゐるのであります。

秀でた學識才能を備へた婦人を妻としたミルは其の妻が立派な一個の人格者であるにも拘らず、女性の故に人としての權利を持つてゐないことの矛盾を烈しく感じ、そして、あの有名な『婦人の服從』と云ふ書物は成つたのであります。ミルの明晰な頭腦と、そして女性的な感受性は婦人の力量と、婦人の狀態とを生き〳〵と明細に觀察したのであります。同時に彼が其れ迄に贏ち得てゐた名聲が此の婦人問題に威嚴と好感を齎すことになりました。そして、それ以來、從來の婦人の位置の破壞に關する書物は續出して、其の書物の名計りでも一冊の書物には載せきれない程數多いものとなりました。そして、此の婦人運動は世界至る處に廣がつて行つたのであります。實際、コンドルセイやウォルストンクラフトやジョージサンドやオーエンは川の表面に浮んだ浮標で、其の川の流れの方向を指示して居たものであります。彼等は社會生活の中心から流れ來る力の方向を指示して居たものでありました。

女性中心の制度を造つた原因もその破壞も又、凡ての權利が男子に集中した家族制

度の完成も亦その破壞も同じ經濟的の原因によつたものであります。家長家族制度に於ても婦人は猶一定の仕事の範圍を持ち、そして、その範圍内に衣食に對する權利も持つて居ました。そして、婦人が男子と競爭しなければならなくなつたのは、不意な產業の發達と、そして、その發達した產業の組織に密接な關係のある純粹な個人主義的な經濟學が十九世紀の始めに發達した其の時からであります。商業及び產業組織の改革と、そして、其の組織に伴ふ敎育の一般普及とは婦人の位置を決して今迄通りに止めて置くことは出來ませんでした。ですから、男子標準の無制限な婦人の職業の競爭も亦止むを得ない必然な過度時代の產物でありませう。

健康的な生活は鑛山の坑穴よりも今の家庭婦人に難しい

今日の社會組織のうちには二つの傾向があります。社會生活の糸はだん〳〵複雜にだんだん密接して來ました。と同時に他の一方には個人の自由の範圍がだん〳〵大きくなつて行きます。薪を割る代りに瓦斯會社を賴り、ランプ掃除をする代りに電氣局

に、井戸を掘る代りに水道局に、漬物をつける代りに漬物屋へ依頼すると云ふやうに仕事が一つ處に集中しつゝありますが、これに反して、私共の思想の範圍はだん〳〵擴がりつゝあります。私共は好む方面へズン〳〵思想を伸して行つて一定の神や佛を拜まなくともよくなつて居ます。そして、其の同じ個人の自由が兩性關係に迄及ぼして來ました。そして、今日の文明人には平等な共通な點は無い程度に迄各々が異つた樣式を取るやうになりました。

けれども、この二つの傾向は相反するものではなく、むしろ、反對に進んで行きながら相調和するものであります。個人が自身の個性を發達させて行かうとすれば、どうしても、社會的共同によるより外に方法はありません。人は自由を得れば得る程共同が必要になつて來ます。ですから、未來の社會は集合主義と云ふ廣い基礎の上の合理的な個人主義でありませう。

そして、この傾向が婦人にどう云ふ影響を與へるかと云ふことを觀察するのは價値あることであります。生產的の仕事が婦人の手を要さなくなると同時に不必要な義務

の重荷が婦人の上に置かれてしまいました。上中流の婦人は交際と云ふ何にもならないことに多くの勢力と時間を費さなければならなくなりました。そして、其のために多くの雇人が必要になつて來ました。そして、それ等の雇人を監督するだけでも一仕事になりました。これは決して健全な生活の様式ではありません。で、健康的な生活は鑛山の坑夫よりも家庭婦人に困難であるとさへ云はれるやうになりました。婦人は幾筋もく〵の有形無形の糸で縛へられてしまつたのです。其の狀態から脫しやうとして先覺婦人は一生懸命に努力したのであります。先覺婦人が要求する高等な智力の標準や、家庭經濟の問題に興味を持つて來た事や、共同的勞働の運動や、野蠻的生活の遺物に對する反抗や、これ等は皆經濟界革新の徵候であります。新紀元が近づいたしるしであります。

女子敎育はこの大きな運動の主要な點であります。勿論此處で云ふ敎育と云ふのは外國語や高等數學のやうなものを意味するのではなく、廣い意味の敎育、則ち、人生の廣い關係を知ることであります。婦人は今日迄此の智識を全く缺いてゐたのであり

ます。

過度時代にはあらゆる方面に於て無駄が多いものですが、健全な眞面自な男女を造つて其の無駄を取らうとするに付いて男女の共學を主張する說があります。少年少女時代から一所に敎育され親密さを造つて置かないことには後年の目的と理想に不自然な差が出來ると云ふのであります。

男女の間に目的と理想の差があつたのでは性慾に關することの外は男女の間に同情が生れないと云ふのであります。其の證據には、他人の姉妹を平氣で害すやうな非常に下等な男でも自分の姉妹には保護を與へる。であるから、男女が相互を本當に了解し同情し合ひ、本當の友情を造らうとするならば、幼年から混合敎育にしなければならないと云ふのであります。

運動には熱が必要

女子敎育の普及と、以前男子にのみ獨占されてゐた職業に婦人が這入らうとする運

動は婦人參政權運動に迄延長されて行きました。英國に於ける此の運動は多くの政治家を味方にすることが出來ました。そして、各政黨の贊成を得ました。それは、一八六九年にミルが『婦人の服從』を出版して以來、多くの政治家が婦人參政權の利益を信じてゐたからであります。そして、保守黨も自由黨も、勞働黨も、自黨の利益を害さない限りは婦人參政權を贊成しやうとしたのです。ですから、英國の婦人參政權の困難は國會に於てではなく、唯、これを實現する方法であつたのです。どの邊迄婦人に參政權を持たせやうかと云ふ範圍の問題が難かしかつたのです。そして、英國の習慣に從つて、其れは理論的ではないけれども、或る種類の妥協が先づ安全だといふことになりました。

こう云ふ問題は輿論の力が强かつたならば忽ち解決はつくのでありますが、實は輿論の背景がありませんでした。一部の國民が非常に熱心であつても大部分が其れを重要視して居ませんでした。大部分の婦人が熱心にならなかつたものですから、從つて、大部分の男子も其れに對しては冷淡であつたのです。今日に於てですらも全體の婦人

から正直な處を聞く時には婦人參政權には比較的冷淡だと云ふことです。

一九一一年のことですが、四萬人計りの婦人に婦人參政權に付ひて質問を發した處が五千五百七十九人が贊成で一萬八千八百五十人が不贊成で、其の他は全く無頓着で何等の回答を與へなかつたと云ふことです。婦人運動が起つて以來ウォールストンクラフトやミル程、此の問題に熱心であつたものは無かつたと云ふことです、曾て、ミルは『婦人運動に最も缺けてゐるものは婦人の熱である。』と云ひましたが、其の婦人の熱は今回の大戰に刺戟されて餘程高まつたのであります。そして、婦人參政權運動は盛んになり、そして大抵は成功して居ります。フインランドに於ては既でに以前から婦人代議士がありますが、此の頃英國に一人、米國に一人婦人代議士が出來たことは世間周知のことであります。

英國の婦人參政權運動團は實に生き〳〵した熱の結晶でありましたが、それは前からあつた芽が成長したものではなく新たなる要素の結晶だと云はれて居ります。そして、其の目ざましい勢力に有產階級も無產階級も皆引きつけられて行つたのです。が、

彼等の眞實さと眞面目さは尊敬に價するものでありますが、併し、餘まりに調子に乘り過ぎて實地の仕事には不適當と云ふ非難もあり、そして、政治家の反感を買つたと云ふ點もあります。のみならず、運動圏の內部から除々と墮落に向つた傾きさへありました、と云ふのは目的が狹くなること、因習が殖へて行くこと、そして、暗鬪が起ること等から、自然病的な感情主義に傾いて行つたのであります。

チャームの力

英國の婦人參政權運動に參加した婦人の種類を調べて見ますと、其處には三種あります。其の第一は中流階級の婦人でありました。自分等の活動範圍の狹いのに窮屈を感じた婦人達であります。ですから、一定の主義もあり充分な自重心も持つてゐる婦人達でありました。けれども、其の第二のものは粗暴な無學な婦人達でありまして、これは主義のために方法を選むのではなく、方法のために主義を選むと云ふ調子で、實に喧噪な刺戟され易い、そして、いつもやりすぎると云ふ種類の婦人達でありまし

た。それから、第三には少數ではありますが非常に重用な分子で、立派な性格の婦人達であります。主義のためには喜んで自分を犠牲に供すると云ふ氣品を備へて居ります。ですから、婦人參政權運動を批評しやうとするならば彼女等の罪とてがらとを比較して見ることが利益でありませう。

いづれにしろ、婦人參政權の必要と正義を了解するやうに一般が敎育され、そして、男子が其れを理解する迄は、婦人參政權論者がどんなに時の政府を攻擊しても其れは的外れでありませう。婦人參政權論者の第一の仕事は大多數の女子を自分の味方にすることであります。大多數の婦人が其の必要を確固に認めた時には彼女達は自分等の手近かに居る政權を握つてゐる男子を說得するでありませう。エレン・ケイが云ふやうに、料理書が婦人の手を汚さないやうに投票紙は婦人の手を汚すものでないと男子等が確信するやうになるには、其の男子は自分がよく知り、愛し、そして、尊敬する妻、或ひは、姉妹の感化を先づ受ける必要がありませう。非常に熱心な女權擴張の演說にも無頓着であり、否、反感さへ持つてゐる男子も敬愛する妻や姉妹の言葉には耳

を借すでありませう。大多數の婦人がまだ全く政權に冷淡である時に婦人が參政權を持つことは望しいことではありません。さふ云ふことは政治上の權利を不信にするのみならず、却つて多くの弊害を伴ふものでありませう。

英國の婦人參政權論者のとつた手段は實際過激でありました。そして、彼女達はあゝ云ふ方法でも取らなければ彼女達の要求を男子の頭へひゞかせることは出來ないと云ふのでありますが、併し、私共はあれを以て最善な方法ではないと思つてゐます。そして、今日迄の參政權を得た各國の婦人が決してあゝした態度に出なかつたことは意味のあることだと私は思つてゐます。

婦人はチャーミングであらねばならぬと云ふことに婦人參政權論者は勿論反對します。もし、チャーミングと云ふことが精神的であれ、肉體的であれ、發達した活動に矛盾するやうな狹い意味の因習的なものであるならば、それに反對することは、勿論、正當です。けれども、これをもつと廣い意味にとつて腕力の反對な力と解釋する時には、これは重要なものになつて來ます。則ち、男子は腕力を代表し、女子はチャーム

を代表する、そして、文明の進歩は腕力から、チャームの力へと移つて行かなければならないのです。

野蠻と云ふことは腕力を以て權利を主張することです。けれども、文明の進歩と共に人から害を受けたものは相手を叩き倒すことの代りに靜かに法廷へ事件を持ち出します。そして、辯護士のチャームを以て判事を說き、平和のうちに受けた損害を償はせます。これが、則ち、男の腕力を用ひたのではなく女性のチャーミングを應用したものなのです。

情緒の作用を規定するための政權

であります から、英國の婦人參政權論者の取つた方法を、もし、とらねばならぬならばそれは實に不幸なことです。なぜなれば參政權を得ることによつて、婦人の失ふ處が多大でありますから。これを云ひかへますと英國の婦人運動は婦人としてよりも人としての權利の要求でありました。そして、米國の婦人運動もそうでありますし、

我が國に於ける婦人論、與謝野晶子氏を始め、大多數が此の派に屬するものでありま
す。

けれども、それは婦人運動の仕事の半分であり、そして、主要なものではありませ
ん。婦人は決して男のやうになれやふ筈もなし、男が女のやうになれやう筈もありま
せん。婦人に無くてならないものは男子であり、男子になくてならないものは婦人で
あつて、そして、兩方が少しも似てゐないので都合がよいのです。全く異つた作用を
爲すものであるので創造の業は營まれて行くのです。

現代文明のうちで最大なる問題は母性問題であります。此の過度時代に於て最も重
要なものは優良なる人物、偉大なる人物を造ることでありますが、其の人物を造るに
は男子よりも婦人が適任者でありますから、此處に婦人問題の中心を置かなければな
りません。我が國の婦人が、もし、政權を得やうとするならば、男と同じ人としてゝ
はなく、母として得なければなりません。母としての職務を完成し得るために、家庭
を堅固な基礎の上に置くために、政權を握らなければなりません。

英國の婦人運動が全然男子の生活を理想的標準としての、男子を模倣しての婦人解放の要求であつたのに反して、獨逸の女權運動は母としての婦人の要求を基礎としたものでありました。英國派が理論から出立したものであるに反して、これは情緒から出立したものであります。英國派は男子の享有するものを女子が持たぬと云ふ理はないと云ひ、參政權其のもの、獲得が目的であつたのに反して、獨逸派は男子と女子は根本的に異るものであると云ふことを基礎としてゐました。情緒を基礎とした社會的作用を正當に規定しなければならないと云ふ要求でありました。

この女權運動は獨逸婦人の運動と當然云へるものでありますけれども、併し根本的にはチユートニツク婦人の運動であります。墺地利の獨逸婦人、瑞西の獨逸婦人、オランダの婦人、スキヤンデネビヤの婦人が皆この運動に引き込まれて居ました。併し、活動の重なる舞臺は矢張り獨逸であつたのです。そして、もう、一度、繰り返して置きますが、これは母としての婦人が當然持たねばならぬ個人的、及び、社會的關係を規定し、制裁する權利の獲得が目的でありました。

獨逸程婦人が純を保つてゐる國はないと云ふのが一度世界の輿論であつたことがあります。そして、婦人は家庭を神聖に保つと云ふのが獨逸人の理想であつて、所謂家庭婦人として優良なことは他の國に類がないと迄云はれてゐました。處が、チュートニック民族を特に研究したシュレンダー博士の意見によると、獨逸の婦人、殊に、獨逸の田舍の婦人程不純なものはないと云ふことでした。そして、獨逸人自身も其れを認めなければならないので、これが非常に獨逸の婦人問題に刺戟を與へたと云ふことであります。

產業階級、並びに、智力階級のうちに迄も勢力を造つて行つた社會民主黨の運動は婦人運動のためにも道をつけて古來の理想と因習を幾分か破つたと云ふことでありますす。社會民主黨の首領ベーベルの婦人論は婦人の位置に對する社會黨の代表的意見だと云はれてゐます。そして、獨逸に於ける婦人運動のこれが嚆矢であつたのです。

けれども、それは無批判的な淺薄な讀者を魅してしまつたに過ぎません。それは科學的の見地からは價値なきものでありましたから。けれども、其れはチエートニック民族の因習に大攻擊を與へました。彼の婦人論は因習的結婚、淫賣、僞りの社會に投げ付けた、いばゞ有効な警鐘ではありました。

處で、獨逸婦人の心には女權と云ふことは實は異樣なものであつたのです。彼女達は男子の生活の模倣など云ふことは全く考へられない程に、男とは異つた傾向を持つてゐたのです。そして、婦人運動が獨逸に這入るのが遲れたのは獨逸婦人が此の問題を一層よく了解し、其の缺點を先づ批評するに大變便利でありました。故に、獨逸の婦人は女權を叫ぶに至つても婦人の本分を忘れてしまうやうなことは無かつたのです。

男子と同程度の敎育を受ける權利、集會の自由、醫師、辯護士と云ふやうな職業に入るの權利は此の頃の獨逸婦人の要求でありまして、そして、或る程度迄は成功しました。そして、この種類の婦人の要求に大した反對もなかつたことは意味のあること

です。一體獨逸程婦人を馬鹿にした哲學者を出した國は外にありません。たとへば、ショッペンハウエル又はニーチェの如き其の代表的人物であります。又、最近に於てはあの著名な故メービアス醫學博士の如きは婦人は生理的に低能だと斷定した書物を出版してゐます。けれども、近年の科學の發達は婦人運動のために非常に有利でありました。歷史、生物學、及び、病理學の見地から、獨逸婦人は徹底的に性の問題を研究して、そして、成功しました。勿論此の性慾の研究は以前にもあつたのですけれども、併し、それは今日のもの程、價値がなかつたのであります。

獨逸の婦人運動は政治的或ひは科學的から始り、そして、それによつて支へられてありますが、併し、其根本に於ては、則ち、運動の基礎となつてゐるものは前にも云つた通り、獨逸婦人の情緒であります。彼女達は婦人の愛情と云ふことに重きを置いて居るのであります。

もし、私共が其の感情と云ふ事を考へるならば、チユートニツク民族の大運動は皆其の感情に根をもつてゐたと云へます。たとへば十八世紀に於ける獨逸の文藝復興も佛蘭西に於ける感情の餘波を受けた感情中心のものであるし、獨逸の科學も常に感情の支配を受けてゐます。宗教革命に至つては大規模の感情の發露を基礎にした獨逸の運動でありました。ルーテルは善かれ惡しかれ最も模範的な獨逸人であつたのです。ルーテルは世界に名を成した大人物でありますが、併し、彼は粗野な迷信的な小百姓であつて、同時に、天才であつたのです。そして、彼の感情の洪水が宗教革命を完成したのです。

こう云ふ風にチユートニツク民族の精神は、いつも感情的であつたと云ふことを私共が記憶する時に獨逸婦人の婦人運動が何處の國の婦人運動よりも感情的であるのは當然であると云ふことが分ります。實に獨逸の婦人運動は政權の要求ではなく感情を活動させる自由の要求であるのです。ですから、母性保護と云ふことが其の基礎となつてゐます。

獨逸婦人ヘレネ・ステツケル博士は一九〇五年性慾道德改革のため一雜誌を發行しました。其れは最初『母性保護』と云ふのでして後には『新時代』と改名しましたが、此の誌上で取り扱はれる問題は母性の作用から起るあらゆる方面のもので、たとへば、戀愛の道德、古今の賣淫、私生兒、私生兒の母、性慾の衛生、性の敎育等でありました。そして、要求は生活の規定、則ち、改革でありまして、それは何處迄も積極的であつたのです。從つて、或るものは社會、及び、實際の方面から、或るものは心理、及び、哲學から、又、或るものは醫學、法律、及び、歷史の方面から論じられたのであります。

此の雜誌は母性保護會の機關雜誌でありましたが、此の會は社會學者、醫學者、及び、法律家が顧問であつて、其のプログラムにはいろ〳〵の實際問題がありますが、其のうちの主もなるものは『母の家』と云ふことでありました。本部は、勿論、伯林にあつて地方地方に支部があります。そして、家なき母を收容する『母の家』はあちこちに十二三は出來てゐます。一九一一年に母性保護と性慾改革とに付いて、第一回の國

際會議がドレスデンに開催されましたが、其の結果として國際母性保護同盟會が設立されました。此の會に出席した國は獨逸、墺地利、伊太利、瑞典、及び、オランダでありましたが、この會議で最大なる興味を引いたものは母性の重用と云ふことでありました。

けれども、これを單なる慈善運動と見てはなりません。これは全然性的道德の改革でありますから。從つて、其の機關類誌『新時代』誌上は慈善の問題でなく、社會的、及び、倫理的の問題で滿ちてゐるのです。そしてこれは現代獨逸の智力階級の婦人を代表してゐるものでありまして、其のうちには女權運動者は這入つてゐないのであります。

男女關係向上の表徵

一度獨逸で墮胎と云ふことが問題になりましたが、ストライトベルヒ公爵夫人は母の墮胎する權利を主張しました。夫人は古代に於てのみならず、基督敎徒のうちにで

すらも或る條件の下には許されてあつた墮胎をよしとする道德に歸へることを主張したのであります。この墮胎と云ふことは教會法が發布される迄は公然行はれてゐたのでありますが、其の教會法は、胎兒は獨立の生活を持つてゐる、故に、墮胎することは殺人罪であると云ふことを宣言しました。そして、ストライトベルヒ夫人は、出產の危險、及び、責任が全然母の上にある以上、胎兒を發達させるのも又は亡くするのも全く母の自由であると云ふのです。

それに對して、メリー・ラスケ女史は法理學の見地から、ス夫人の意見に盛んに反對を試みました。勿論、ラスケ夫人も今日迄の墮胎に對する法律の改正の必要は認めてゐます。其處で、ワインベルヒ博士はストライトベルヒ夫人とラスケ夫人との意見をくめゝつて、そして、矢張り法理學の見地から次のやうに云つて居ます『ストライトベルヒ夫人の意見のうちには可なりな眞理が含まれてゐる。何となれば、現代の司法上の見地から云ふと刑法は正當なものの權利を保護するが故に存在の理由があるのだが、胎兒は法律上、まだ害されるべき權利を持つてゐない。のみならず、道德の見地から

も、胎兒が破壞されるのが却つて社會の利益である場合ひが少なくない。』と。

こう云ふ厄介な問題に付いて獨逸婦人が如何に熱心であるかと云ふ、これはよき例であります。そして、これによつて獨逸婦人は、實際政治の範圍には這入つて來ないで、或る孤立した點のみをとつて以て問題としてゐると云ふことが分ります。そして彼女達がそう云ふ傾向をもつてゐる根本の理由は、何であるか？　彼女達の根本概念を成してゐるものは何であるかを私達が知らうとする時には私達はエレンケーを研究するのが最も利益であります。感情的な獨逸婦人が情味豐かなケイ女史の說に傾倒して行つたのは眞に自然であり、獨逸の母性保護同盟會がケイ女史の感化の下に成立したのもいはれのあることです。

ケイ女史の意見の主なるものは『戀愛と結婚』『兒童の世紀』『婦人運動』のうちに含まれてゐまして、そして、此の三册とも私共の友人原田實氏が最も忠實に反譯されまして、このうち『戀愛と結婚』は出版されてから日ならずして、もう、五版を重ねて居ますが、ケイ女史の戀愛觀がかくも廣く我が國に普及されて行くことを私は衷心から喜

んで居るものであります。これはやがて我が國に於ける戀愛觀に一革命が起り、男女關係の向上を見る表徵であるに相違ないのですから。

性的道德改革の意義

ケイ女史は婦人運動に於ける英米派の進歩の概念と、女史自身の進歩の概念の間には大きな差のあることをはつきりと見てゐます。そして、英米派の男子を模倣しての女權擴張は人類の勢力を無駄にするものであると云つてゐます。精神的に生理的に全然異つて居り、そして、全然異つた作用をなす男と女が結合することによつて最も優良な實を結ぶものであるとケイ女史は說いてゐます。成程、婦人は婦人として活動するために自由の範圍を必要とします。この點に付いては英米の婦人運動も正當です。けれども、それは男子に適した仕事を男子から奪ふとするので、ケイ女史の云ふ婦人の創造的活動のために自由を要求すると云ふのではないのです。女史は云ひます。最高な人類の單位は三位一體、則ち、父と母と子である、と。ですから、教育に於て、

考へらるべき最後のものは結婚ではなく、人生の中心となるものなのです。そして、其の中心は子供なのです。ケイ女史の戀愛と云ふのは一時の出來心ではなく、欲望と友情の總合なのです。丁度、空氣が酸素と窒素の總合であるやうに。今迄、男子は戀愛の精神側を認めなかつたが、此の頃其處に氣付いて來たのは大進歩であると女史は云つてゐます。社會主義者の婦人運動は、成程、一ッの輝いた理想的な方面を持つてはゐますが、併し、それは健全な科學的の人生觀の上に載つてゐない、いはゞ、砂の上に建てられた家でありますが、ケー女史の主張する自由は社會秩序と法律を認めての上の自由です。眞正な法律には從ふべしと云ふ自由です。つまり、女史の自由の意義は道德界に於ても政治界に於ても本當の責任觀の發達に必要なる自由であるのです。

性的道德の改革と云ふと人は直ぐに社會の秩序を破壞するもののやうに考へますが、決して、そうではなく、實は青年男女が義務や、又は、性慾に囚はれて自分自身を奴隷にしやうとするのを救うのが目的なのです。ですから、完全なる唯一の改革は

人類の根本的要求と調和して動く本能に從ふことによつて、其の時々の氣まぐれを防ぐための自由なのです。そして、それは、決して、人類の最善なる云ひ傳へに反するものではないのです。人類の幸福に關する心遣いは人間の精神生活の最も立派に發達したものであるとケイ女史は云つてゐます。

ケイ女史の書物を讀む人は誰でも、女史の性的道德とゴールトンの善種學の基礎となつてゐる概念との間に著しい調和のあることを見逃がすことは出來ないでせう。ゴールトンは『科學的智識と調和した人類の改良は新しい宗教的運動によらねばならぬ』と云ひ、そして、何故にかやうな豫想が道理にかなつてゐるかを明らかにするために、『過去に於ては、人は神の命令であると信じて最も實行困難なる結婚法に從つて來た。であるから、人類の幸福のための要求は正確な智識を基礎とした宗教的の感情から來ることによつて、其の有效さが少ないと相像する理由はない。』と云つてゐます。

個人の幸福と社會の利益とは相反するものでない

ゴールトンがそう云つてゐると殆んど同時にエレン・ケイは『戀愛と論理』と云ふ論文に於て、丁度其れと同じやうなことを云つてゐます。けれども、ケイ女史の方は科學的の見地からではなく感情の方の見地からでありました。最初からケイ女史はゴールトンの善種學と同じ基礎の上に此の問題を置いてゐたのです。結婚法はいつも個人の滿足と社會の要求とが相反して、其處に困難が生じたのでありますが、今や愛を基礎とする結婚を奬勵することによつて個人の幸福と人種改良の要求とがぴつたり調和するとケイ女史は云つて居ります。

婦人の位置の變遷に關して私共が考へなければならない問題は婦人の位置の變遷が人種にどう云ふ影響を與へるかと云ふことでありますが、もと人類は女性の理想に從つてかたち造られたと云ふことであります。そして、一般に動物が性の關係を取りきめるのは雌の方に權利があります。雄は立派な色彩や美しい聲や、男性的な力と云ふやうな魅力をもつて雌の好意を得ることに勤めます。そして、雌が自分の心に叶つた相手を選擇します。處で、人間の場合は今日に於ては其れと正反對です。女が容色を

飾り、男の好意をむかへて、そして、選擇されるのです。女性美を發達させたと云へば云へないことも無いでせうが、併し、動物の女性よりも人間の女性に權威のないことは事實です。

けれども、絶對に、腕力が權力である動物界に於ては、一ツの群の首領は殆んど常に雄であります。この點に付いては殆んど例外はないやうです。と云ふのは雌には妊娠、及び、補乳と云ふ大役があるからです。この妊娠、補乳と云ふことの爲に動物界に於ても同じやうに、人間界に於ても全然女性は男性に從屬せしめられました。が、私は動物界を支配してゐる法則が等しく人間界を支配することの不正を認めて居るものであります。

昔、或る國には妊娠した女は誰の畑へでも、何處の果樹園にでも自由に這入つて食物をとる權利があつたと云ひますが、此の習慣が新しい形式をもつて現れるかどうかは、生殖の業が社會的の作用として認められるかどうかによる問題であります。が、少なくとも獨逸に於ては大部分まとまつてゐる問題であり、これが則ち母性保護であ

つて、そして、其れは徐々と各國に擴がりつゝあります。

羅馬や希臘が倒れたのは婦人が女性としての威嚴と眞の女らしさを失つた結果であると云ふ說がありますが、今後の婦人は、藝術や、科學が新しくなると同じやうに、人間の生命其のものを新しくすることに努力しなければなりません。ウイットマンは『社會が改造される唯一の道は新婦人の出現である』と云つてゐます。

最も進步した婦人運動者の宣言

チユートニック民族の婦人運動は感情に出立した母性保護であり、アングロサキソン民族の婦人運動は女權の擴張であることを述べて參りましたが、獨逸婦人も矢張り婦人が男子と同じ權利を持つの必要は認めてゐます。けれども、婦人は婦人にピッタリ適合する範圍内に婦人の力を用ひねばならぬことを決して忘れません。男子により適當である仕事を何百萬の婦人が爲した處が、人類の立場から見れば其れは無駄なことである、と云ふことを忘れません。そして、これは、男子の仕事を婦人が爲すことは

ベートベンやワグネルに機關車を運轉さむるのと同じである、と云ふエレン●ケイの說を奉じた結果であります。

ですから、私は婦人解放運動の本家である英國よりも、又、同じ種類の運動に著しい發達を遂げた米國よりも、むしろ、遲ればせに目覺めた獨逸が此の婦人運動に成功してゐることを信じるものであります。英米の婦人運動は婦人の職業の自由、參政權の獲得には成功しても、併し、人間性の改造に貢献する處があつたとは云はれません。合衆國に於ける婦人參政權論者の祖先スザン●アンソニー●女史が或る時獨逸を訪問して、獨逸の兩陛下に面會した時、カイゼルは女史に向つて、獨逸でも直きに婦人に參政權を許すであらう、と云つたそうです。けれども、傍にゐて其れを聞いた皇后は皇帝の言葉を餘まりに突飛なものだとして笑はれたと云ふことであります。この皇后の感情、其の笑ひは獨逸婦人を代表したものでありませう。

併し、其の後獨逸婦人は智力上の大活動をしてゐます。チユートニック民族の徹底さを以て活躍してゐます。先覺者であつたアングロサキソン婦人を模倣することなく、

全然、彼等自身の理想を實現しやうとして努力してゐます。獨逸婦人は生物學及び、醫學の方面から婦人問題を進めつゝあります。

アリストフアネスの時代から今日に至る迄婦人は、時々、男子の領分を犯しては、いつも、又家庭に歸らせられたと云ふことを獨逸婦人は信じてゐます。そして、彼女達は云つてゐます。

『家庭が我々婦人の天地であると云ふことは異理である。戀愛、結婚、育兒は婦人の權利であると、同時に婦人の義務である。故に、我々獨逸婦人は我々自身の世界を規定するために、我々自身の法律を造らねばならぬ』と。これは、今日に於て、最も進歩した獨逸の婦人運動者の宣言であります。そして、これは私共日本婦人の參考とするに足るものであると私は信じて居ります。

眞の愛を味い得る時は何時か

民衆を自由にしやうとする民主運動と、婦人を自由にしやうとする婦人運動は盲目

な動物の狀態から、輝いた最高な文明へと進んで行く必然な階段であります。そしてそれ等の運動は選擇の自由を發達の第一條件と見てゐます。そして友誼を幸福に必要な基礎と見てゐます。今日迄、世界の婦人を包んでゐた個人主義的の空氣は人類の進歩に大障碍であることを、今日の最も進歩した婦人論者は認めてゐます。

婦人の使命がます〳〵延長して行く事實を信ずる人は人類のより幸福なる未來は男子のみで造れるものでないことを知つてゐます。兩性の共同によつて新しい生命が生れる如く男女が精神的に共同することによつて、新しい智識は生れます。云ひかへれば、進化に於ける婦人の使命は、腕力の治世から、智力の治世を通り、而して、精神界に人類を導いて行く處にあるのです。今日迄、男子は智力の司祭者であり、婦人は愛の司祭者でありました。男女はお互ひから多くを學ねばなりません。最高な智識に達する迄は人は精神界に入ることが出來ません。そして最高な智識は愛であります。

腕力と云ふ野蠻主義は其の壓制的な足の下に無數の人類を踏みつけて來ました。地球上の富の持主は其の富を武器として無數の人を奴隷にしやうとしました。男子は婦

人の精神を、今猶、籠の中へ入れて、そして、婦人の肉體を玩弄物視しやうとしてゐます。

それ等の壓制家に對抗しやうとして文明社會に於てはあらゆる階級から貴い男女が立ち上りました。併し、それ等の壓制家に對抗するに當つて暴力や憎惡の念を武器にする代りに、愛を武器に用いたいものです。

私共婦人は戰爭には厭きました。血みどろの戰ひには戰慄致します。競爭に厭きました。憎しみ合ふことに厭きました。もし、私共婦人が暴力を用ゆる場合があるとすれば、それは止むを得ない自家保護であります。婦人を解放することによつて人類は本當の愛を味ふことが出來るのであります。

故に婦人運動は如何にして愛を解放するかであります。愛を解放するとは愛を養ふことであり、愛を養ふものは貴い、自覺ある、開發された母であります。

（終）



晩春の手記

原田翠子

○

十年余り都會で暮してゐた私はふとしたことから鄕里の田舍へ行く事になつて、そこで半年ばかりを過した。

はじめに田舍の新鮮な空氣とひろ〳〵とした自然とは、都會の日々の生活に疲れてゐた私にとつて限りもなくうれしかつた、また電車の音や工場の笛の響なぞのうるさくない靜かな周圍をば私は心からよろこんだ。けれど日を經るまゝにその土地に住む人達との交渉が始まり、その人達の暮し振りや考へてゐる事なぞが次第に理解されるにつれて私はこの自然の富に豊かな土地が決して人々の心をも豊かにしないことを知つて思ひ傷まずに居られなかつた、この地方に住む人々にとつて何よりも貴重なものは物質の富であつた、そしてその唯一つのたのしみはいやしい快樂の外になかつた、人々はほんとうに考へるといふ事をしらない、何か自分に都合のよくない事が起つた時はその原因や將來に及ぼす結果なぞを考へようともせずにたゞ徒らに運命をかこつばかりである。また

人々が固く固く垣をめぐらしてゐる家といふものゝ中には決して自由と平和とは存在しなかつた、親は子を愛するよりは抑壓しようとし、子は親を敬ふよりは反抗しようとした。人々の第一の願ひは一家の繁榮といふことであつたにも拘らずそはともすれば裏切られる場合が多かつた。人々の間の交際は物品の贈答の外になかつた、しかもそれには自己の力を誇る得意の心持が十分こもつてゐた。

私はその人々の中に暮すことが追々に苦しくなつてきた、そして自から私は獨りをまもるやうになつた。今はその人々の生活を思ひ悲しむとよりも自分自身の心の生活が苦しかつた。私はその人々と何の親しみをも感じ得ない自分を羞ぢずにはゐられなかつた。

いかなる地上にか愛することを拒まれた者があらう、また愛する力のないものがあらう。けれども何故に現在人々は相愛してゐないのであるか？ そしてこの誤られたる人心を正しく導くためには何を要するのであらう。

○

私は何かにつけて親達の性質の缺陷を感じることが深い、けれどそれと同時に自分自身を省みた時はほんとうに恐ろしい思ひに打たれる。私自身の心の中には親達の性質の缺陷がそのまゝまざまざと表はれてゐるからである。親達の心を悲しむ念は同時に自分自身の心を悲しむの念となる。



親達にも從かなければならない、同時に自分自分にも從かなければならない、私は屢々それを思ふ。

○

お前の一番欲しいものはと訊かれたならば即座にそれは自由であると答へるであらう、けれどお前は今日までその自由を得てゐるかと訊かれるならば私は答へ樣をしらない、私は自分の意志にのみ依て今日まで一身を處して來た、けれども自分の意志を以て他人に及ぼしたことはなかつた。私は卑怯なひとりよがりであらうか、

○

春の花が皆散つて樹々の新緑が濃い色に變る五月の頃は一年の中で最も憂鬱な時である。櫻や楓や梧桐なぞの大木は暗い蔭を他に落して日光をさへぎつてゐる、力の限りに成長しきつた草木の姿は却て見る人の心を悩ましめる。森や林に飛び互ひ啼き交す小鳥の聲もそゞろに往く春を惜しむかのやうに聞かれる。

私の心には何の望も野心もなかつた、あてどのない淋しさがあるばかりであつた。周圍を顧ればまことに私には小數の愛する人々があつた。その人々のためにも私は生きて愉快に働らかればならぬ義務のある事が思はれたけれども何といふこの倦怠の感じであらう、さうしてまた無興味な心持



であらう。夕暮水色の空にまたゝく無数の星屑が仰いだ時神秘の悦楽に憧れるよりは不可測な宇宙の行末を憶つて私の心は暗くなつた。

忙しい日々の生活にたゞ一つすてかねるものは漂泊の思ひである。遠く遠く旅に出で立たむ願ひである、地上のいづこにかこの淋しさをよする処があらうか、たゞいづこまでなりともさ迷つて行かば――たとひ慰められずともその外にせんすべはないのである。私の心はたゞ遠い遠い旅を憶ふ

○

私の心は「與ふる者のよろこび」で一杯になることがある、ほんとに人に與へるといふ事ほど喜ばしい事があるだらうか、同時にまたなんにも與ふべきものを持たないことほどつらい事があるだらうか。が與ふべきもの、それは常に一片の好意さへあればよいのである。またその外に與へ得るものはないのである。

○

私の知つてゐる一人の老人が海へ入つて死んだ。その人は七十を越した今日まで町の銀行へ勤めて家の生計を助けてゐたのであつたが今度愈々その務を止めてらくをする事にきまつた矢先き何故か俄かに不慮の死を遂げたのであつた。

大方それは氣が變になつての上であらうと親類の人達は話し合つた、でなければそんな死に様な



するわけがない、その老人のあと〻りの娵も養子にきた人もい〻人であるし、もう孫もあつて睦じく暮してゐるのだからと。けれどもこの解釋でとけない事が一つあつた、その老人の書置の和歌にはまざ／＼と死を覺悟した意味が現はれた。

勤めを止めてらくになる――それがために生き甲斐もなく思つたのではなからうか、自分が働らひて家のたすけをするといふ唯一つの幸福の感じを奪はれたために死を願つたのではなからうか私はさう考へてみた。

◎寄贈雜誌　五月號

文化運動　賃生活
女學世界　女學生
婦人雜報　性の研究
平民法律　新組織
正教時報　婦人界
北海の正教　自働車交通及び運輸
精神運動　社會主義研究
關西婦人新聞　婦女新聞

◎寄贈新刊

母樣論	小野政方著	新光社
理想鄉	堺利彥譯述	アルス
溫泉案內		鐵道院
男女爭鬪史	堺利彥著	榮川堂
動搖の巷を眺めて	西宮藤朝著	三德社
女教員物語	志垣氏子著	弘道館

紙面が狹いので又批評を載せることが出來ませんでした來月こそと思つて居ます

落穗集

■草間判二様。山川菊榮女史の『人此の世に生を享けた以上誰に頭を下げずとも必要なだけの衣食の支給を受ける事は人間自然の權利である』と云ふ說には私も反對です。最も幼年期、少年期にあるものには私も其の權利を認めますし、又、青年になつてからも衣食の支給と敎育を受ける權利が長くなればなる程個人にとつても社會にとつても有利であることを認めますが、併し、我が國の經濟狀態にあつては、先づ、少年少女が當然持ち得る權利は中學校、女學校卒業程度であつて、それ以上の學校費用は凡て當人が後に其の學資の支給者に返金しなければならない、つまり、當人の負債と云ふやうな氣持ちになつてゐて貰いたいと私は常に思つてゐます。

高等學校、又は、大學に子供を學ばせる親、又、學ばせ得る財力を持つ親が、其の子供に後で金を返へさせようなど〻は絕對に思つてゐないでせうし、又、其の必要もないでせう。けれども、高等敎育を受ける青年には其の位ひに義務の念を強くしてゐて貰いたいと私は思つてゐます。云ひかへれば、普通敎育以上の敎育を受けたからには、自分の體にはそれだけ多くの資本がか〻つてゐるから、それだけ多く有益な人間になつて、親に金を返へす代りに社會に貢獻する處がなければならないと云ふやうな心掛けでゐて貰いたいと私は常に思つてゐます。

まして、一人前になつた人間が働く義務を忘れて、唯、生存權をふりまはすのを私はいつも苦々しく思つてゐます。制限があるので自由があり、義務を果すので權利が生れると云ふことは動かすべからざる原則であるのですから。

家庭生活に必要な仕事に對する非常に便利な器械が發明されて、衣類のことから、食事の事から、掃除の事から、一切を其の器械がするやうになつても、猶、婦人の主要な仕事である育兒のために婦人には晝夜ぶつとうしの間斷なき仕事があります。赤子のおむつを取りかへたり、泣く赤子をあやなしたり、授乳したりする器械が發明されるとも思へませんから。

育兒に費すだけの時間はとらないとしても、我が國

人の主食物なる米、及び、其の他の食料品が、一日一二時間づゝ、卅年の人のみが働くことによつて充分得られる時が來ると云ふことは私にも考へられません。米の種を下すことから、春田おこしから始まつて、稲が花を持つ前に三度も田の草取りをすることから、籾殼をとつて、いよ〳〵米にする迄の手數と苦勞は到底都に生れ都で育つた人には分らないでせうれ。

山川女史は非常に明晰な頭腦の持主です。けれども女史の議論には私はいつもあき足らなく思つて居るものです。それに付いては本號の『我が國に於ける三種の婦人論』のうちに少し計り書いて置きました。御参照下さいませ。

御書面をお寄せ下さいました方達に前號で書き足らなかつたことを此處で申上げます。前號は紙面が既でに一杯になつたゝめ書けなかつたのです。磯野秀之様の御注意は本當にありがたう御座いました。自分でもどうかと思つてゐた處を云つて頂いたやうな次第で御座います。けれども、唯、一ツ、原内閣に對する私の意見には反對だとの御言葉ですが、もし、私の考へが諸新聞諸雜誌の意見と同じものであるならば私はわざ〳〵これを此の誌上に取り上げなかつたのでありますが、余まりに一般の考へと私のとが異つてゐたものですから、私は私の意見を本誌の讀者の方に申上げたかつたので御座います。

とにかく、本誌第二號の「内外時事評論」は評判が惡ふ御座いました。『此の雜誌で政治論は聞きたくない』とか『全體、あの内外事評は無駄な努力だ』とか云ふ御小言の御手紙が幾本か參りました。そして、大低の方が私の平生の主張の家庭中心、子供本位のもので全誌を埋めよとの御注文で御座いました。

けれども、本誌創刊號の『婦人と新社會を發刊するに就て』の中にも書いて置きました通り、私共、次代の母である婦人は多方面に通じて居なければならないと私は考へるのです。各社會問題を批評することによつて直接間接に家庭を堅固な基礎の上に置き子供を優良に養育し得るのだと私は思ふのです。政權を得る得ない、職業の自由を持つ持たないは別として、男子の好伴侶であり、賢明な母であるために、夫や子供が誤まつた行動に出ないやうに監督するために政治に經濟に勞働問題に、常に、一通りの批評眼を持つてゐなけ

ればならないと思ふのです。

人形の着物を脱ぎ捨てゝ、新時代の創造にたづさはらなければ、ちよい私共婦人はあらゆる社會問題の批判者でありたいと云ふのが私の希望であるのです。このことに付いては拙著『愛と生活』の中にいさゝか書いて置きました。本誌第三號の『婦人參政權』の中にも引いて置きましたやうに、婦人の生活と社會とは從つて政府とはます〱密着な關係が送られて行く時に私共婦人は政界の變動に勞働界の動靜に決して無頓着でゐてはなりません。其の方面の事柄が私共婦人に密接な關係がある計りでなく、其の影響は一々敬する夫の上にも愛する子供の上にも來るのですから。で、私は此の誌上に政治經濟の問題も決して無意義ではないやうに考へるのです。のみならず、私の考へ得たことは、それがどの方面のものであつても此の雜誌の讀者の方に提供したいと思ふのです。

けれども、問題が政治經濟に觸れたからとてこれは全然從來の女權擴張論とは別なものであることを御承知置き願ひます。それに付いては此の號の『最も進歩した婦人運動者の宣言のうちにも書いてあります。審い良妻賢母主義に反抗して起つた女權擴張論の非を見てゐる私は家庭と子供が本位だからと云つて、婦人の眼界を全然其處に限つてしまう遠い良妻賢母主義にも反對するものであります●

上田在の一讀者樣。御忠告の數々はよく玩味致します。けれども、『原内閣のタイコ持ちの尻押しも下らなし』は少々亂暴なお言葉だと思ひました。もし、其の筆法で行くならば、原内閣の攻擊は時勢の尻に喰付いて行く時勢の雷同者、民衆への阿諛者であるでせう。『過激派の經濟問題は馬鹿らし』と云ふやうな非難もありましたが、過激派のこと、經濟問題のこと、これ等は婦人の世界には全く影響のないものでないことは前にも申ました。

いづれにしろ、わざ〱御書面を御寄せ下さいました皆樣の御厚情の程を謹しんで御禮申上げます。

■石川徹樣。御注意の數々はよく考へて見ます。有りがたう御座ました。

■林久滿樹樣。多大の御同情下さいまして諸方面へ本誌を御寄附下さいましたことを厚く御禮申上げます。この上とも御援助の程偏に御願ひ申上げます。

血色(ちいろ)の文字

The Scarlet Letter

ホーソン作

『ヘスターは本當に針仕事がうまかつたのですれ。本當ですよ。けれども、今迄に、あの鐵面皮な女のやうに、自分の耻をさらすために自分であんなに工夫をしたものがあるでせうか？たしかに皆さん、あの女は、神樣のやうなお奉行樣の前で笑つたり、立派な役人達が罰のつもりで與へたものを立派そうにあゝして見せびらかすとは何事でせう。』と一人の女が云ひ出すと、非常に冷酷そうな顔をした老女が、

『あの女のあのなめらつこい肩から、あの立派な着物をひんむいてやればいゝ。あんなに變てこに縫ひつけてある赤い字には私のリヨーマチの時に使ふ赤いフランネルの襤褸で拵へた方がよつぽどいゝ。それが本當に相當してゐるのだ。』と口の中で呟いた。

『まア、靜かになさいよ。お靜かになさいよ、そんなことをあの女(ひと)に聞かせちや可愛相ですよ。あの字を縫ひつけるに付いては一針々々にあの女(ひと)は苦痛を感じてゐるに相違ないのですから』見物人中の一番若い女がさゝやいてゐると、あの陰鬱な恐い顔した教區吏か官棒を振つて、そして云つ

た。

「退け、退け、王様の名によつてお前方に命令する。道をあけい。………我等はお前方に約束する。このプリン夫人をお前方の前に坐らせ、男にも女にも子供にも、今から午後一時迄、この立派な着物がよく見へるやうにしてやる。だから、道をあけて呉れ。ああ云ふ不仕末が露見して明るみへ引きずり出されると云ふことはマサチユセツの律氣な植民地のために幸ひである。さア、來いヘスター夫人、そして、お前の其の血色の文字をみんなに見せるがよい。」

芝生の上の群集は道を開けた。敬區吏に導かれて、そして、嚴格なシカメ顔した男や、無情らしい顔した女達の不規律な行列に從はれて、ヘスター・プリンは彼女の刑罰のために設けられた場所へと進んで行つた。此の事件に付いては何の了解もないが、唯、半日學校が休めると云ふことだけを知つた物見高い學童等の群は絕へずヘスターの顔や、彼女に抱かれてまぼしがつてゐる赤子や、彼女の胸の上の耻の文字をジロ／＼見ながら、彼女の前を走つてゐた。獄屋から廣場迄はそう遠くはなかつたが、併し、罪人の經驗によつて計つて見るとそれは可なりに長い旅であつた。ヘスターの態度は高慢ではあつたが、それでも、彼女は群集に踏みにじられ蹴飛ばされるために自分の心臟を大道に投出(ほうりだ)されたかのやうに感じた。群集の足音の一ツ／＼から彼女は苦惱はあびせかけられるのであつた。併し、人間には一ツの性質があつて、それは不思議なものであると同時に慈悲深いも

のである●と云ふのは非常な苦しみに遭遇した者は、其の目前の苦しさのために其の苦しみの暴しさには氣が付かない。それは後になつて腫み爛れて苦しいのであるが。それ故、殆んご落付いた歩調でヘスター●プリンは彼女のつらい役目の一ッを仕終せて、そして、遂いに斷頭臺と云つたやうなものゝ上に登つて行つた。それはボストンの古い教會の殆んど軒の下にたてゝあつて恰も教會の雑作の一ッのやうに見ゆるのであつた。

此の處刑臺は、實に、刑具の一部となつてゐるものであつた。そして、此の二三代この方は、其れは唯歴史的の、又は、口碑的のものとして見られて居るのであるけれども、併し、昔は其れが善良な市民を造るために有効なものとされてあつたのである。丁度、佛蘭西の兇暴政治家か斷頭機(ギロテイン)を有効なものとしてゐたやうに。一言で云へば、それは頭手架の臺であつたのである。懲罰のために頭をしつかりと押へて、そして、公衆の前へ罪人の顏を晒すための枠(わく)が其の臺の上にしつらへてあつたのである。鐵と木で工夫されてある其の枠(わく)は恥と云ふ概念を含んでも居るし、又、それをよく表白してゐた。けれども、人の過失の種類が何であろうとも、我々の普通の心を持つたものにとつては、恥のために顏をかくすことが出來ない程甚しい暴虐はない。が、これが此の刑罰の目的であるのである。が、ヘスター●プリンに與へられた宣告は、他の場合ひに於てもなくはなかつたことであるが、唯、其の臺の上に立つだけであつて、首を掴まれ　頭を押へられるのではなかつた。其

處に頭をつつこませることが其の醜い枠の悪魔のやうな特色であつたのだが。ヘスターは彼女の今爲さればならぬことをよく知つてゐるので、其の處刑臺の木造の階段を登つて行つて、そして、群集の肩の上あたりへ自分自身を現した。

もし、此の淸敎徒の群集の中に羅馬敎徒がゐたならば、彼は、赤子を抱へた繪のやうに美しい服裝と態度のヘスターのうちに、有名な畫工達が畫き出さうとして競爭し合つた聖母の像に付いての或るものを思ひ起したであらう。けれども、同時に、後には世界の罪を償はうとする赤子を抱へた淸淨な母の像と對照した或るものを思ひ起さなければならなかつたであらう。實に此處には人間の最も神聖な性質のうちに深い罪の汚れがあつて、其の結果はヘスターの美のために世界は一層暗くされ、彼女の抱へた子供のためには一層不利にされてゐるのであるから。

一人の同胞の罪と耻が見世物にされる時にいつもあるやうに、實に其の光景のうちには畏懼と云ふことが混じつてゐた。人の罪さ耻に面して戰慄することの代りに、微笑する程社會が腐敗してゐない時に、其の罪と耻の晒しものに對する時いつでも持つやうに。ヘスター、プンリの耻を目の前に見た人達はまだ彼等の淳朴さを失つてはゐなかつたのである。もし、ヘスターの宣告が死刑であつたとしても、この見物人は其の刑の苛酷さに付いて囁き合ふやうなことはなく、嚴然として彼女の死を眺めて居たであらう。けれども、他の社會にはあるやうに、一人の女が晒し物にされるのを

嘲弄の種にする程此の見物人は無情ではなかつた。もし、又、見物人のうちにこれを嘲弄したいやうな氣持ちを持つたものがあつたとしても、其處に臨席してゐる知事や、參事官や、判事や、將軍や、此の町の牧師の嚴格な態度によつて威壓されてしまつたに違ひない。其の人達は禮拜堂の張出縁に立つたり坐つたりして處刑臺の上を見下してゐたのである。それ等の人達が彼等の階級の威風や、職務の尊嚴をみだすことなく、こう云ふ見世物の一部を構成してゐる時には、確かに法律の宣告は切實な、そして、有効な結果を齎すことが推測される。實際、其れによつて群集の態度は眞面目で嚴粛なのである。

不幸な罪人であるヘスターは無數の見物人の目の重荷に壓迫されながらも、女として出來るだけ自分自身を保持してゐた。見物人の假借なき目は皆等しく彼女の胸の上に集まつてゐた。そして、其れは彼女にとつては我慢出來ないものであつた。刺戟を受け易い、熱情的なヘスターは侮蔑的な見物人の針や毒刃を受けるために身構へしてゐたのである。あらゆる罵詈をあびせられるのを豫期してゐたのである。けれども、彼女は見物人の嚴格な態度のうちに一層烈しい恐しさを感じた。そして、見物人の其のかたい顔が自分を的の嘲弄的の笑顔にでもゆるんで呉れることを心のうちで願つた。もし、凡ての男、凡ての女、つき通るやうな鋭い聲を持つた子供が、各々勝手な罵詈を投げて、そして、それと共に哄笑をあびせかけるならば、ヘスターは、却つて、苦々(にが〳〵)しい、横柄な笑ひ

をもつて其れに報ひてやることが出來たのである。けれども、彼女の其の豫期に反して、彼女は鉛のやうに重い屈辱を堪へ忍ばなければならないので、彼女は其の瞬間に彼女の肺臓が許す限りの大聲を擧げて、そして、臺の上から地上に自分自身をたゝきつけたい、さもなければ、すぐ、發狂するであらうと思つた。

けれども、其の瞬間に彼女の心にゆるみが出來て、自分自身が一人目立つてゐる此の集合の光景が彼女の目から消へて行くやうに思へた。少なくとも、目の前の群集が不完全なかたちの一塊、或ひは、影人形であるやうな氣持ちになつた。彼女の心は、殊に彼女の記憶が異様に敏捷に働き出して、そして、西部曠野の端の此の小さい町の粗雑に切り開かれた街上ではなく、外の光景が彼女の目に後から／＼映つて來るのである。そして、目の前にゐる人々の先きの尖つた帽子の緣の下からは其等の人々の顔ではなく、外の人逹の顔が見へるのである。そして、學校時代のこと、樂しかつた野遊び、子供らしいいさかい、少女時代の家事の練習など、後から／＼思ひ起されて、そしてそれ等の些細な事柄だの、其の後の重大な事柄だのが、一ツ／＼はつきりと、かはる／＼目の前に浮んで來るのである。そして、それ等の凡てが皆重要なことのやうに、或ひは又、一ツの劇のやうにも思へた。それ等の幻影を畫き出したのは、恐らく、此のむごたらしい現在の苦痛から逃れるため、彼女の精神が本能的に工夫したものであらう。

いづれにしろ、幸福な幼女時代から今日迄の彼女の歩んだ全部の道を彼女に見させた場所は其の處刑臺であつたのである。其の不幸な臺の上に立つて、彼女は再び彼女の兩親の故郷である英國の或る村を思ひ起した。貧乏くさい傾きかゝつた灰色の石造の家、けれども、もと名門であつたしるしに門の上には半分消へかゝつた定紋があつた。そして、彼女は、禿げ上がつた額、尊大に見ゆる白い髯をエリザベス時代に流行した襟襞（えりひだ）の上に垂らした父の顔を見た。彼女は又母の顔を見た。其の注意深い樣子と、ヘスターの心から、決して、擦り消すことの出來ない愛のための憂慮を見た。そして、それは母の死後も幾度も〱優しい諫告となつてヘスターの進まうとする道をさへぎつたものであつた。ヘスターは、又、處女らしい美をもつて輝いた彼女自身の顔を見た。それは、彼女が常に眺めてゐた薄暗い鏡の中を明るくしたものであつた。

彼女はもう一人の顔を見た。其の顔は年のために痩せて青白く、そして、學者らしい樣子をしてゐた。そして、其の目はランプの灯のために朦朧とし、且つ、爛れてゐた。けれども、其のランプが多くの大部な書物を彼に熟讀させたのである。處が、其の目は人間のたましいを讀むために用ひられた時には不思議な透察力を持つてゐた。ヘスター、プリンの女らしい想像力がいつも描き出すやうに、此の書齋と僧庵の人である學者の姿は少し不具になつてゐた。左の肩が右の肩よりも少し高くなつてゐたのである。それから、其の次に彼女の記憶の場面に現れて來たものは大陸的な都會

のこみ合つた狹い道路と、高い灰色の家と、巨大な大伽藍と、公共の建物とであつて、それ等は古い奇妙な建築物であつたのである。そして、其處には彼女のために新生活が待つてゐたのである。猶不恰好な學者とは無關係でなく。けれども、其の新生活は、ぼろ〳〵になつた壁の上の綠の苔の一かたまりのやうに、時代がたつて朽ちかゝつた材料の上に生きることであつたのである。最後に、其れ等のいろ〳〵な移り變つて行く光景のかはりに、俄然、淸教徒の植民地の粗末な廣場を彼女は目の前に見た。其處には町の人々が皆集まつて、そして、彼等の嚴酷な目を彼女に向けてゐた。實に彼女自身が其の衆目の的になつてゐた。金糸の刺繍で異樣にAと云ふ血色の文字を胸につけて、腕に赤子を抱へて！

　これが本當にあり得ることだろうか？と思つてヘスターは赤子をきつく胸にひつかゝへた。それが、あまり、手荒かつたので赤子は泣き聲を擧げた。彼女は目を落して胸の血色の文字を眺めた。そして、彼女は、赤子や其の恥のしるしが現實であるかどうかを確めるために指先きで其の文字を觸つて見た。實に其處にあるものは皆現實であつたのである。凡て外のものは皆彼女自身の目の前から消へてしまつた。

編輯を終りて

本號の長論文は實は福岡日々新聞へ送るために執筆したものでありますが、これには可なりの努力と時日を費したものですから、本誌の讀者の方にも是非見て頂きたいと思ひまして全部掲載致しました。其のために内外時評を入れることが出來ませんでした。

始めつから皆樣に申上げたい〱と思つてゐながら紙面に餘地がなかつたゝめに申後れましたが、この頃は、殊に大戰後は人心が非常に動搖して居ましてやゝもすると私共はまるで坩堝(るつぼ)の中へでも投げ込まれたやうな氣持ちになります。此の時に私共は思ひきつて落付かなければならないと私は考へるのです。そして、適確に方面を定めて進まないことには取り返へしの付かないことになると思ふのです。それで其の落ち付く方法としては本當に精選された深刻な古文を讀むことがいゝと私は思ふのです。さう云ふ氣持ちで私は『血色の文字』の譯出を思ひ立つたのです。のみならず此の『血色の文字』は生命の宗教から見れば人間の强味であり、因襲から見れば人間の弱點を曝露した戀愛を取り扱つてありますそして神聖な愛と其の愛を活かす方法が宜しきを得なければ悲劇に終らなければならないことを教へてゐます。で、私はこれを戀愛に目覺めやうとしてゐる愛する青年男女の方に提供したいと思つたのです。

(編輯に關することは東京四谷南伊賀町四一山田わか宛に願ひます。)

本誌定價表

一册	六册	十二册
前金	前金	前金
金二十五錢	金壹圓四十錢	金貳圓七十錢
送料五厘	送料不要	送料不要

○誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京四一〇七七番に御拂込みのこと（郵券代用は五厘切手にて一割増）
○廣告は御照會次第御相談いたします

大正九年五月二十日印刷
大正九年六月一日發行

東京本郷湯島四ノ三
編輯兼發行人　阿部仙太郎

東京神田仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京本郷區湯島四ノ三
發行所　東洋出版社
振替東京四一〇七七番

忽諸ニ付ス可カラザル
庖厨ノ經濟

富貴竈

本器ハ如何ナル家庭ニモ順應シ得ル構造ニシテ僅少ノ燃料ニテ完全ニ炊爨ヲ便ジ其ノ經濟的眞價ハ第一高等女學校ノ證明スル處ナリ

目錄進呈



東京市淺草橋際
阿部彦商店
電話下谷 一九二三
三二四八

日日聖觀

(定價金四圓五拾錢)

發行所

東京市本郷區春木町二丁目

森江書店

振替東京八二一九番

山田わか女史著

新刊

戀愛の社會的意義

四六版三百卅餘頁
定價金壹圓八拾錢
送料拾貳錢

目次大要

東京市本郷區湯島四ノ三
發行所 東洋出版社
振替東京四一〇七七番